

令和3年度 霧島市相談支援専門員スキルアップ研修会 I アンケート集計

開催日時：令和3年9月30日（木） 14時～16時

講演：ひきこもり支援の現場と取組 ～相談支援で大切なこと～

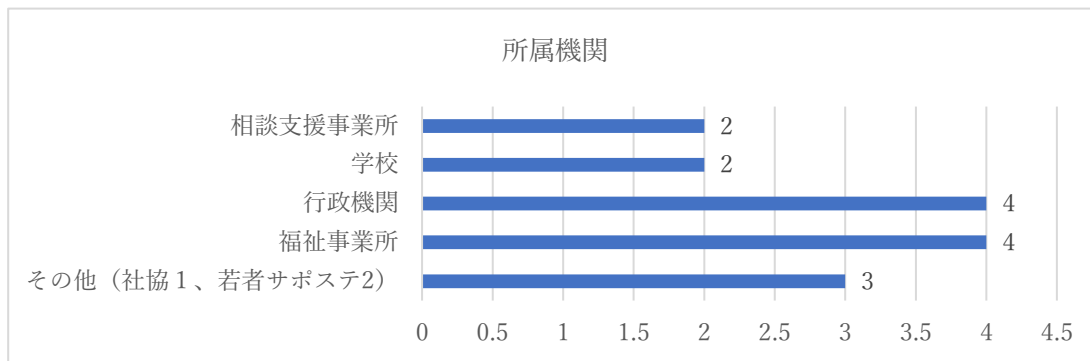
講師：一般社団法人パーソナルサービス支援機構

代表理事 大倉 一真

参加者数：会場 29名 YouTube 視聴：44名

1. アンケート回答

- ・回答者数：15名
- ・所属機関：相談支援事業所 2名
学校 2名
行政機関 4名
福祉事業所 4名
その他 3名（社会福祉協議会1名、若者サポートステーション2名）



2. 研修会の感想・ご意見 「ご感想・ご意見にコメントを添えさせていただきました」

- ・とても勉強になりました！

「そう言っただけで良かったです。今回の研修会参加者さんの業種が多種にわたっていたので広く浅いお話になってしまったかと思います。少人数でも業種を絞る形で、事例検討のような掘り下げた形の研修会もできたらなあと考えていますので、ご要望あればおっしゃってください！」

- ・健ちゃんの笑顔が印象的でした。

改めて行政として居場所、支援のあり方を考えたいなと思いました。

「ありがとうございます！健ちゃんも写真を見て、自分がそんな表情をしていたことに驚いていました！居場所については1つの団体で1か所を運営するのは本来業務もあるので大変かと思いますが、地域協同で運営できる仕組みがつくれればいいかなと考えています！」

- ・関わり方について深い気づきを得る事が出来ました！

相談支援の時の対象者との関わり方について、対話の重要性を学ぶ事が出来ました。

ありがとうございました！

「ポイントを押さえていただきありがとうございます！こういった方々は今に至るまでに様々なトラウマを経験しています。対話の中には心をケアすること（インフォームドケア）が含まれていますので、可能であれば、過去を振り返りながらのケアができると、この先の支援が楽になります。言い換えると、支援が楽になると言うことは、その方も無理なく行動していけるようになりますよ！」

- ・大倉さんの活動がわかりやすく紹介されていた。

「実は私、幼少の頃はきつ音症状が少しありまして、人前で話すというのがすごく苦手でした。なので、今でも人前ではよくかむし、言葉が出にくくなることもあります。だけど過去を振り返れば、自分にとってすごく安心できる家庭環境や人付き合いの中で育つことができたということもあって、今の自分が在るようになっています。だから、今関わっている人たち、うちのスタッフも含めて、安心して過ごせる環境づくりに努めております」

- ・全体を見渡しながらのスキマ支援、狭間支援というお話しに非常に共感しました。

現在のかごしまサポステの方向性は、スキマ支援とは真逆の方向なのですが、今日のお話を聞いて、サポステの中でも出来るだけの事をしていこうと思いました。

「スキマ支援が立派ということでもなく、私たちの活動ができるのも、皆さまのようにしっかりと制度の中で活動くださる方々がおられてこそと考えております」

- ・行政だけでは限界があるので、仕組みづくりが必要だと思う。

「行政は行政の役割があるので、限界突破していただくのは難しいかもしれません。だからこそ、産官学民の連携や地域共生社会の実現が重要であると考えております」

- ・援助の実際を聞くことができ非常に勉強になった。当施設でも対応困難時の指針としたい。

「是非、困難事例検討会や勉強会に呼んでください！」

- ・霧島市にもあったらいいなと思えるサービス支援でした。

「『あったらいいな』を地域の方皆さんで共有できると、必ず実現できます！」

- ・時間が足りないくらい、盛り沢山の内容で為になりました。

「活動が多岐にわたるので、またいつか機会をいただけた際は、テーマを絞ってお話ししたいと思います！」

- ・大倉先生の話の話を聞けば聞くほど、すごい事業をされていると感じました。霧島市でも対応できる事業所があれば救われる児童や大人、障害者の方達も多いと思うし、何より頼れる支援機関があるという当事者の安心感が違うと思います。事例も混ぜながらお話頂き、とてもわかりやすくあっという間の時間でした。また機会があればぜひ拝聴したいと思います。

「事業を進めていく上で、スタッフのスキルアップだけでなく、スタッフ同士の助け合いや大切だと実感しております。そのような組織の中にある支援の仕組みでなければ、どんなすごそうな事業でも、ご利用者さんに安心感を持っていただくことはできないと考えています。引き続き、素敵な職場を目指しますね！」

- ・大倉さんの活動はNHKの番組を見て知っていましたが本当に幅広く活動されておりびっくりしました。療育を提供している事業所ですが普段から家族支援にも力を入れておりますが、霧島市には連携できる機関が行政だけで、しかも行政は線引きをしてしまうため地域支援の難しさを感じています。だからと言って大倉さんのようなことを私自身が始めるというエネルギーもなく、今の立場で自分ができることを精一杯やっているのみです。今回のお話を聞いてまだ自分にもできることがあるヒントを頂きましたので微力ながら頑張っていきたいと思います。

「NHK番組が何度か全国でも放送されたようで、多くの知人からも連絡がありました、、、恥ずかしい限りです。地域の中に新たな社会資源を創るのは、本当に骨が折れますし、何よりも運営資金の問題もあります。その費用対効果はどうかかなど検証の土台に乗せるためにも、まずは、私たちが無償でサポートさせていただき、その効果が目に見えるようになれば『お金をかけてでも、その仕組みを霧島にもつくろう』とならないかなと考えています。どんどん私たちをご活用下さい！」

- ・霧島市や始良市にもこんな素晴らしい支援をしてくれる団体があればいいなと思いました。「家族ぐるみ」を支援するという考えに共感します。色んな受け皿（箱）が用意されていることで、支援を実行・継続できるということが、現実味のある支援だなと感動しました。

「生きづらさを抱えておられる方が一歩を踏み出そうとするとときに、常に不安な空気が流れているご家庭の中ではそれが難しくなったりします。そのためにも、社会の安心・安全を訴えるよりも、まずはご家庭の環境がそうでなければならないと考えています。足しげく通い、労を費やすことになるかもしれませんが、ご家族の様子が良くなると、不思議とその後の支援がトントン拍子に進んだりもしますよ！ 1つの組織で受け皿をつくることは大変です。多種多様な受け皿が求められるこのご時世、連携・共生での仕組みづくりに目を向けていかなければいけないかもしれませんね。その際には、連携・共生の仕組みの中心には当事者さんがいるということを考えることが大切です」

- ・他県の出身でもあるに係らず、鹿屋に来られ、地元の方々から続かないよと言われながらも地道に業務に取り掛かり、地域の方々の信頼を得られたことは素晴らしいと感じました。

複数の事業に取り組まれる中で全体を見まわして、隙間型の支援をすることは、すべての業務に当てはまると感じました。

資料にないスライドもあり、動画視聴では分かりにくい部分もありましたが、再度資料を確認して学習し直したいと思います。

「京都から来た私を、こうして研修などでも呼んでいただき、また、日々、本当にたくさんの方から応援もいただけて、とても心強い限りです。美味しい食材も安く手に入るのも、個人的にも鹿児島に移住して良かったと感じています。この度は、動画視聴とのことですが、直接お話しが出来る機会が持てればと願っております」

- ・具体的な支援の仕方や大切な考え方等研修を深めることができました。

「基本的な考えですが、『当事者の思いを軸に支援を組み立てる』ということを常に念頭に置いてやっていますが、皆さまの業務の中では私たちとはまた違った支援の難しさがあり、基本的なことだけではどうにもいかないことがたくさんおありなのでしょうね。むしろ、私も皆さまから学ぶ機会をいただきたいと思います」

- ・とてもよかったです。具体的な活動の様子がよく伝わってきました。引きこもっている子ども達への具体的な支援の方法や気をつけないといけない声かけの方法など、ヒントをたくさん聞くことが出来てよかったですと思います。人として、人の心と向かい合う大切さや距離感を保つ事の大切さが見えてきたように感じました。

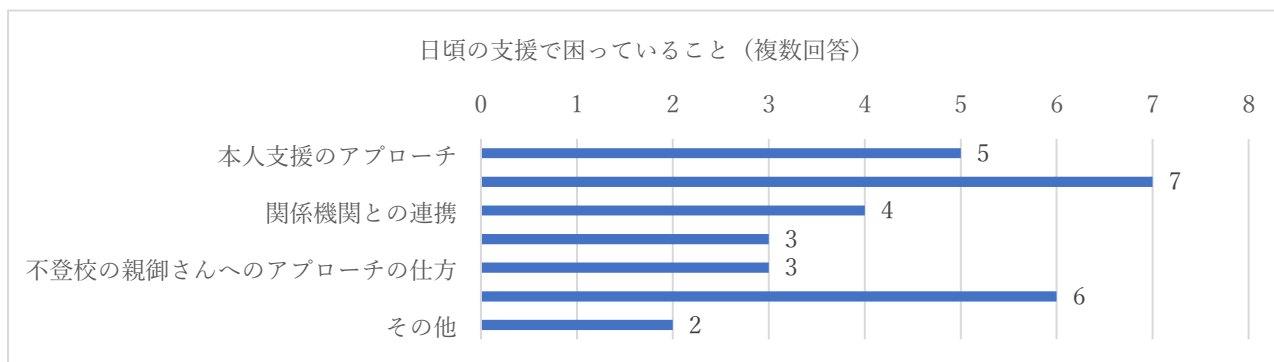
「支援する側だからといっても同じ人。何もすべてこちらで距離感をコントロールできるわけではありません。人として相手からどのように見られているのかが一番大切で、相手との関係性が築けていなければ、意味のある距離感を保つことができません。支援するにあたり、専門性も大切ですが、関係性はもっと大切だと考えています」

3. 日頃の支援で困っていること。(複数回答可)

項目	人数
本人支援のアプローチ	5人
家族支援へのアプローチ	7人
関係機関との連携	4人
不登校の子どもさんへの声掛けの仕方	3人
不登校の親御さんへのアプローチの仕方	3人
関係が途絶えてしまった方への再アプローチの仕方	6人
その他	2人

その他のご意見 ・ 仕組み

・ 精神疾患があると思われるが受診に繋がらず、困難なケース

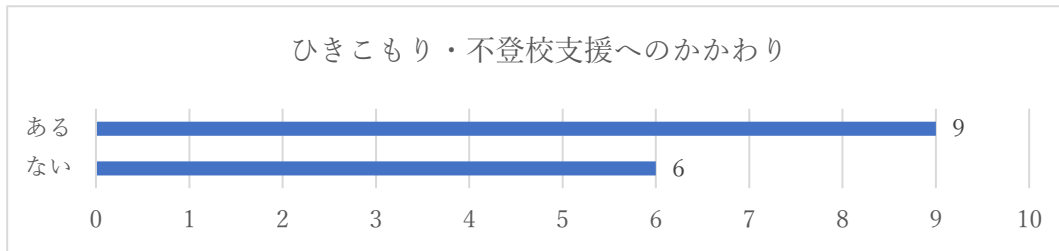


4. 3で答えた項目について、具体的な内容をお聞かせください。

- ・ 職場との連携が不十分!?
- ・ まず親の引きこもりに対する理解から、その際、両親揃って子供に対する認識と対応について共通の理解が必要だか、なかなか両親揃ってその事について向かうという意識にならない。
- ・ 対利用者ではなく、組織内の人への付度で、支援のやり方を考えなければならない事に本当に困っている。サポステの本来の役割をもう一度よく考えながら、利用者さんへのアプローチを考えていきたい。
- ・ 困難事例が多く、医療機関との連携など難しい。
- ・ 生活保護対象家族ではあるが拒否され、障害年金受給希望されるが要件を満たしておらず現在母親の年金と妹の仕送りのみでの生活をされている精神障害者あり。母親より預貯金土地などの財産 2000 万円近くあることが発覚し、緊急での対応不要ということで連絡途絶えている。
- ・ 子どもの自立を、まだ先の事と思ってなのか、過保護になっている親御さんへの対応。
- ・ 支援が必要と思われるが、精神疾患により拒否が強い為、支援ケース
- ・ まだ経験年数が浅く、困難事例のケースや対応方法に困るケースを担当していません。
- ・ 保護者も発達障害あるいは特性のある方が多いため、アプローチにとっても工夫と時間がかかる保護者が変わると子供もかわるので、根気強く取り組んでいる。
虐待が疑われるケースへの関係機関との連携の難しさあり。温度差、責任の押し付け合いなど感じる。自分たちの立場ではなく子どもの立場で素早く対応してほしい。
- ・ 本人の本音が分からない。
- ・ 本人のこだわりが強く、一回嫌になってしまうと、なかなか心を開いてくれなくなってしまうました。不登校への意思が強く、家庭訪問をして声をかけても返事はなく、顔を見ることも難しくなっていました。

5. ひきこもり・不登校等の支援に今までかかわったことがありますか？

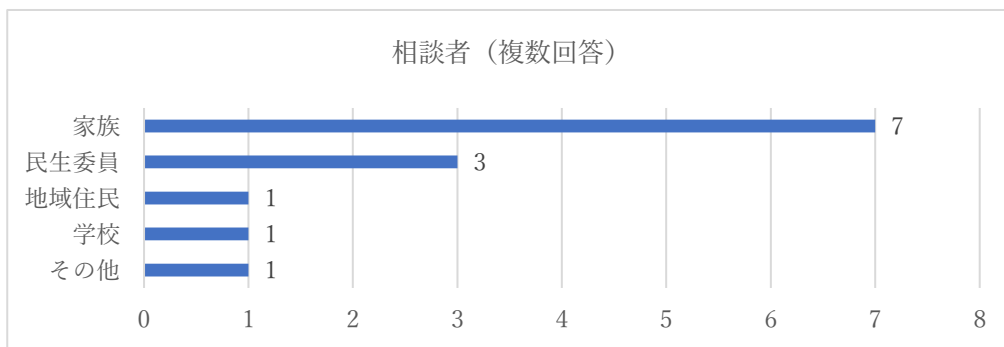
項目	人数
ある	9
ない	6



6. 5であると答えた方にお伺いします。相談者はどなたでしたか？

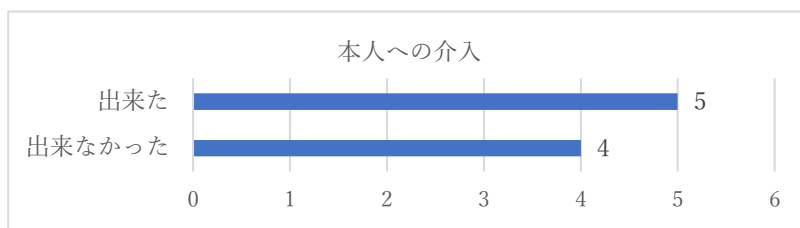
項目	人
家族	7
民生委員	3
地域住民	1
学校	1
その他	1

その他：本人



7. 本人に介入することはできましたか？

項目	人
出来た	5
出来なかった	4



8. 介入出来た方もできなかった方もお伺いします。どのようなアプローチをされましたか？

- ・授業の一貫として、かかわりを繋げた。
- ・訪問
- ・生活の自立支援と職業支援。無職だったので、世の中仕組みに適合出来るように関わりましたがダメでした。

- ・まずは、親御さんの相談を継続して行い。本人が興味を持ったり、親御さんがサポステについて本人に話せるようになってから、面談に繋がった。
- ・ご両親の気持ちから伺いました。
- ・家族や関係機関との事前協議があったから。
- ・療育のプログラムの中で自己理解を深める事やコミュニケーション力を高める支援をしているので活動を通して一緒に考え、最終的には自分で判断していく手伝いをしている。
また必要に応じて本人、家族の了解を得て園や学校と連携している。保育所等訪問事業の活用をしている。
- ・家庭訪問をして、お手紙を持って行ったり、お家での様子を聞いたり、本人の健康状態を聞いたりしました。また、参加出来そうな行事の様子を伝えたりしました。

9. アプローチの仕方等で先生にお聞きしたいこと

「ご質問にお答えさせていただきましたが、あくまで1つの意見としてご参考にさせていただきます」

- ・初回訪問のノウハウ

「主訴をハッキリ伝えることが大切ですが、前提として『求められていない訪問』であるなら、『今日は親御さんとお話しさせていただくために伺いましたが、こうしてお顔を合わすことができただけでも良かったです』と、多くは求めずに、たった一步の前進でも大きな前進と捉える気持ちが大切であったり、

『おせっかいで申し訳ないのですが、親御さんが心配されてるので、私がお考えを聞いて親御さんにお伝えし、今は心配しなくても良いよとお伝えしようと思ひまして』と、あくまでも、サポートの対象は親御さんであると伝え、身構えないようにする工夫をしたり、その様なやり取りを通じて、ひきこもってることやニート状態であることについて理解や共感の思いを伝えることができれば、今後の訪問はその積み重ねになるかと思ひます。

ただ、初回から会ってくれる様子は無いということであれば、短い文面の手紙をお渡しすることが多いです。そこには、一切、私たちの支援のことは書きません。欲しくもない商品のカタログを見せてもらっても興味を示さず捨ててしまうのと同じで、あいさつをする感覚で、たわいもないことを書いています。そこに少しずつ、季節柄のことや時事のことを書き加え、自分の趣味や好みのことを書き加え、『好物の桃の季節がやってきたからお土産で持ってきました』なんてことを書いたりし、それを食べてるときの様子を親御さんに聞いたりしています。

手紙に始まり、食卓にも他者が入り込んできたことが、すべて急な展開だと抵抗を感じるかもしれませんが、これを短い方で3か月~1年、長い方で2年~5年ほどかけています。過去に一番長い方は10年という女性がいました。高校中退した16才から関わり、10年の経過の中で携帯電話が当たり前の時代となり、留守にさせておくことを心配した親が携帯を持たせたことをきっかけに、手紙の中に私のメールアドレスを必ず書くようにし、しばらくしてメールをもらうことができたというのが10年経った頃でした。

初回訪問は、長い長いこれからの関わりの中での『単なる始めの一步』なのだというくらいにリラックスされて訪問されて下さればと思ひます」

- ・両親の認識の違いから、母親がなかなか夫と話し合えないため、子供のひきこもりに対して向き合えない状況の場合、どのように家族支援をされていますか？

「ご両親のどちらか片方の理解が違う方向性であったり、子育てに関心が無かったりということとはよくあります。ご質問のように、夫となかなか話し合えないという場合は、窓口になっている母親に負担をかけないよう、直接、夫の帰りを待って後日面談のアポを取りに行ったりしま

す。そこで、夫なりの本音を聴くことができれば、家族丸ごと支えていくことができるようになる場合が多いです。夫にお話を聞いていただくために、何度も何度も頭を下げに行ったこともあります」

- ・ご両親に信頼してもらう為に1番必要なことは何でしょうか？

また、ps支援機構では、どれ位の期間で支援している人が元気になっていきますか？

勿論個人差があるとは思いますが…

「相談はしてくれるものの、そこにはまだ信頼関係が、、、と感じることもよくあります。ただ、私個人の考えもですし、スタッフの教育の際にも話していますが、『信頼というのは成果を示して始めて得ることができる』という考えの下で活動しています。また、関係性を築く努力は支援者側からやらなくてはなりません。信頼を得れようが得れまいが、ご両親のニーズに応えることが大切だと考えています。無茶なことを言われたり、言葉遣いや扱いがひどいと感じることもあります。しかし、それはそれでご両親の実態を見ることができ、その子どもへの支援方針も見えてくることもあるので、見せかけの信頼は邪魔になることもあります」

「私たちが関わる方の多くは気持の波があります。元気なときもあれば、そうでないときもあります。元気になってもらうことを目指し、元気になれることを当事者さんと共に喜ぶと、『元気でないときの様子は見せたくない』という考えになることもあって、ひきこもり状態に戻ってしまうことがあります。なので、来所してくれたり、活動に参加してくれることだけに着目し、テンションとしては無理せず今まで通りでいいという雰囲気をつくっています。ただ、結果的に笑顔を見せてくれるようになるのは、ちゃんと面談ができたその日から見せてくれています。あとは、タイミング的なものもありますが、就労訓練先の方に褒めてもらえたりなど、期間よりも他者との関わりが増えるかどうか、体験活動の場にどれだけ足を運べるかが、笑顔を見せてくれること、元気になれることにつながる重要なことだと考えており、実際に、そういうほほ笑ましい場面をよく目にします」

- ・実際の鹿屋の施設に見学または日常生活でのアプローチなど、施設で体験できれば非常にありがたいです。

「是非いつでも見学に来られて下さい。可能ならば、数日くらいインターンで来られた方が見えるものがあると思います。でもきっと、私たちは何もしていないように見えますよ」

- ・本人との関係回復を行うきっかけには、どのような方法がありますか？

「よくある親御さんからのご相談で、『もう私たちからの話は聞いてくれない』というのがあります。これからの支援を進める中で、必ず親御さんもそこに加わっていただかないといけない場合もありますが、直接的には関わらない方がよいこともあります。なので、どの程度の関係回復が必要かということを見極め、必要以上に関係回復を行うことで拒絶されるリスクを軽減することも考えなくてはなりません。そのことを前提として、どのように関係回復を図るかという、大切な考え方は2つあります。1つは、『過去の言動についての理解と共感、時には謝罪』、もう1つは、『今、安心・安全と思える場所や時間を確保する』ということです。その2つがあって初めて未来について一緒に考えることができるようになります。そして、これからの課程の中で、本人の『尊厳の回復』『権利の回復』を行うことで、ご家族との関係性が回復していくものと考えています」

10. その他ご意見 「その他ご意見にもコメントを添えさせていただきました」

- ・利用者の方が継続されている期間はどのくらいですか？

「フリースクールのご利用、就労支援のご利用、生活相談のご利用、と様々ですが、その皆さんとは、私たちのおせっかいでいつまでも利用を継続していただいています。民間の支援ですが、継続利用者さんの利用料金(送迎・食事等込み)は高くても1日1,000円の設定となっています。その利用料をいただいている方は、フリースクールや居場所として利用をされている方で、就労支援中の方や復学や就職のアフターケア中の方からは料金をいただいません。なので、気軽に遊びに来ていただけるようになっています。私たちは利用していただいているという感覚ですが、その方たちにはそういう感覚ではなく、遊びに来ているという感覚の中で、しっかりアフターケアをさせていただいています。

具体的なサービスの利用として、フリースクールとして高校2年生から2年間利用し、その後の就労訓練で1年半頑張っておられる方がおられます。その方もいよいよ直接雇用となるのですが、アフターケアは今後も続いていきます」

- ・PS 支援機構さんで、外部の相談員の研修をしてくださる機会があったら、是非受けたいと思います。そんな機会を是非作って下さい！

「新しい施設の建て替えが叶えば、色々な企画をどんどん進めていきたいと考えています。その際は是非ご参加下さい！」

- ・コロナが収まりましたら実際に鹿屋の施設に行ってみたいと思います。

「だいぶん落ち着いてきましたね。是非いらして下さい！」

- ・講演資料が小さくて見づらかった。四分割をせめて二分割にしてほしいです。

「ご連絡いただければPDF資料をメールで送りますよ！」

- ・予想以上に多岐に渡る支援をされていたので、非常に勉強になりました。丸ごと受けとめる、お節介といえるような介入、行政ではなかなかできないところを支援いただけるのは、非常に有難く、柔軟な対応に羨ましくも思えました。また、このような機会があれば是非参加させていただきたいと思います。講師の方、関係者の方々に感謝いたします。

「これでもまだまだ不十分と感ずることがありますが、施設の建て替えが叶えば、新しい私たちの活動をご覧に入れられるようになると思いますので楽しみにしていただけると幸いです」

- ・今後、大倉先生のような支援機関を霧島市も立ち上げる予定があるのか知りたいです。

「今、全ての自治体で重層的支援の仕組みづくりを進める流れになっております。霧島市でも模索されているところだと思いますので、どのような仕組みが必要かなど、どんどん声を上げていただければと思います。応援しています！」

- ・県外から来られ、また大隅は昔ながらの考えが強い地域（閉鎖的）なのでこれだけの事業を展開されてこられるのはとてもご苦労されていると思いますし、とてもエネルギーが必要だと考えますが、その原動力は何ですか？

「私が学生の頃、阪神淡路大震災で被災した友人がたくさんいて、命を落とした友人もいました。色々な葛藤がありましたが、何かしたいとボランティアに参加しました。が、自分の無力さに痛感させられただけでした。それでも、『行動しない』という選択肢はありませんでした。志半ばで死んでしまった友人に顔向けできないと思い、その頃から、どんなことでも思い立ったら行動に移そうという人間になったのかなと思います。その後、ホームレス支援に関わったり、労働組合で働いたりし、社会の課題に向き合う人生となりました。なので、鹿児島県大隅に来たとき、この地域課題のことばかり考えるようになり、移住するという選択肢しか自分の中にはありませんでした。先に別の地域に行ったら、そっちに行ってたかもしれません」

- ・講師の話を再度企画していただけるとありがたいです。

「ご縁いただけるのであれば、是非、職場や仲間内で企画していただければと思います。少人数でコアなテーマを皆さんで議論するという形式でも面白いですね！」

- ・不登校の子ども達が復学のエネルギーを取り戻していている事を知り、子ども達への素晴らしい支援活動をされている方々がいらっしゃる事が分かり、とても心強く嬉しく感じました。

「子どもたちの支援ができるのはほんのわずかな期間だけです。けれども、そのわずかな期間の中で結果を出そうとは考えていません。高校入学や卒業が人生の目標ではありません。今、仮に学校に行けていなくても、そんなに将来を悲観しなくてもいいのだと知ってもらいたいと常に考え、寄り添っています。その中で、復学は副産物的なものなのですが、それでも、『今、学校めっちゃ楽しい!』とLINEを貰うと、とても嬉しく思います。そんな子どもたちからも活動の原動力となるエネルギーをいただいています！」

さいごに

「この度は、霧島市でご活躍される多くの方にお話しを聞いていただく機会を持てたことに、運営の皆さま、そして、ご参加下さった皆さまに感謝を申し上げます。

これからも、地域の中にどのような参加の場が必要かを考え、誰もが平等に、自分らしく、活躍できる、そして、多様な方々がコミットできる場づくりを進めていきたいと考えています。そのためにも、私たちが皆さまと一緒に多様な時代を先回りできるよう頑張っていきますので、よろしく願いいたします！」